

事務事業名		通学路整備事業(赤崎地区その3)				☒ 実施計画掲載事業		☐ 総合戦略掲載事業				
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間		予算科目				
	施策名	良好な生活空間の創造						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	生活道路の整備						01	08	02	02	11
根拠法令						☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 平成28 年度～平成29 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		事務事業区分				
所属	部課名	都市整備部建設課						A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)				
	課長名	阿部博基										
	係名	土木係	電話	0192-27-3111								
	担当者	高橋史子	内線	316								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
本路線は、赤崎小学校への通学路である。通学する生徒の安全確保には十分な配慮が必要であるが、赤崎小学校周辺は復興関連の事業実施中であり通学路の確保に苦慮している。このことから、将来的にも今回整備する路線を通学路として利用することにより新県道からの通学のみならず、旧県道から通学する生徒の安全を確保するものである。						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金				
【計画期間】 工事施工(L=90m) 平成28～29年度							財源内訳	都道府県支出金				
事業費は、工事費、事務費として支出される。								地方債	21,300			
								その他				
								一般財源	100			
							事業費計(A)	21,400				
						人件費	正規職員従事人数	4				
							延べ業務時間	272				
							人件費計(B)	1,088				
							トータルコスト(A)+(B)	22,488				

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

工事施工(H28年度より繰越 L=90m)

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

工事施工(H28年度より繰越 L=90m)

② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等

通路利用者、児童

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

通路利用者、児童に安全に利用してもらう。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

安全に移動及び活動できる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 施工延長	m
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 計画総延長	m
キ 主たる利用者数(市民全員)	人
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 十分な幅員で設置された供用開始通路延長	m
シ 整備率(計画区間整備済延長/計画総延長)	%
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円		10,200	11,100			
		その他	千 円						
	人件費	一般財源	千 円		60	40			
		事業費計 (A)	千 円	0	10,260	11,140	0	0	0
		正規職員従事人数	人		2	2			
		延べ業務時間	時 間		150	122			
		人件費計 (B)	千 円	0	600	488	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千 円	0	10,860	11,628	0	0	0	
⑤活動指標		ア	m		90	90			
		イ							
		ウ							
⑥対象指標		カ	m		90	90			
		キ	人		300	300			
		ク							
⑦成果指標		サ	m		45	90			
		シ	%		50%	100%			
		ス							

事務事業ID	1762	事務事業名	通学路整備事業(赤崎地区その3)
--------	------	-------	------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

赤崎小学校へ通学する生徒の安全確保には十分な配慮が必要であるが、赤崎小学校周辺は復興関連の事業実施中であり通学路の確保に苦慮していることから、将来的にも今回整備する路線を通学路として利用することにより新県道からの通学のみならず旧県道から通学する児童の安全を確保するもの。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

地域の理解度が進み、協力的になった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 新設整備により、安全・快適に利用できるもので、都市環境の向上につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 公共道路の通学路整備は、行政が行うことが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 この事業により利用者が安全に利用できるようになるため、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 十分な幅員で設置された道路計画延長となっていることから、これ以上の成果向上余地が認められない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 安全で快適に利用できない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の費用で実施していることから、削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限で対応していることから、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 一般に供する通路であることから、受益者負担になじまない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
平成29年度で事業完了した。		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																								

4 課長等意見

(1) 今後の方向性 1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容 平成29年度で事業完了した。
---	---